

湿度が高く暑い日には、エアコンのスイッチについて手が伸びてしまう。都市部では一家に二台も珍しくない。身近なエアコンではあるが、はたして上手に使用しているだろうか。夏本番に入る前に自宅のエアコンについて再点検してみよう。

エアコンの内部には冷媒といわれる液体があり、それを蒸発させる。その際、周囲の熱を奪うので、結果的にまわりの空気が冷える。化粧品などのスプレーを使うと缶を持つ手が少し冷たくなるのと同じ原理だ。逆に気体となった冷媒を液体に戻す時には熱がでる。室外機からの熱風はこの排熱である。

従って、室外機と建物の壁の間のすき間が狭かったり、直射日光が当たって熱がうまく逃げなかったりすると、冷房効率は格段に悪くなる。すき間は少なくとも十センチは欲しい。室外機の設置場所を配慮することが大切である。

また、エアコンを使う際に注意しなければならないのが部屋の換気。エアコンは室内の空気を循環させて冷却しているに過ぎず、室内の空気は入れ替わらない。

最近の住宅は気密性が非常に高い。マンションでは、窓を閉めきっていた場合、空気の入れ替えに十時間もかかる。室内で

マイホーム 安心の設計図

田辺 新一

エアコンを点検

内部を清掃、カビ防ぐ

発生するにおいや汚染物質を外
部に排出して室内を清浄に保つ
ためには、最低でも二時間に一
回は空気を入れ替えなければな
らない。

夏場には建材などからホルム
アルデヒドの発散が多くなり、
換気なしでは頭痛やほき気をお
こすシックハウスになってしま
う。もちろん、換気をすれば外
から暑く湿った空気が入って
くる。熱を取り込まずに空気を入
れ替える、熱交換型の換気扇を
利用する方法もある。エアコン
と併用すれば省エネにもつな
がる。

それから、夏の本格的使用に
そなえて、エアコンの掃除をし
よう。室内機のカバーを開ける
と冷却フィンと呼ばれる板が並

んだ部分がある。ここにゴミが
たまっていると、冷却効率が低
下するのみではなく、カビの原
因ともなる。

エアコンのスイッチを入れた
時の、いやなおいはカビが原
因だ。日曜大工でカビを除去
するスプレーなども手に入る。
専門業者も多く
なってきたの
で、利用するの
も一手だ。

また、冷却除
湿された水が室
内機の中にたま
っていることも
あるので、試運
転をして外にあ
るホースから水
が排出されてい
るかを確かめよ
う。

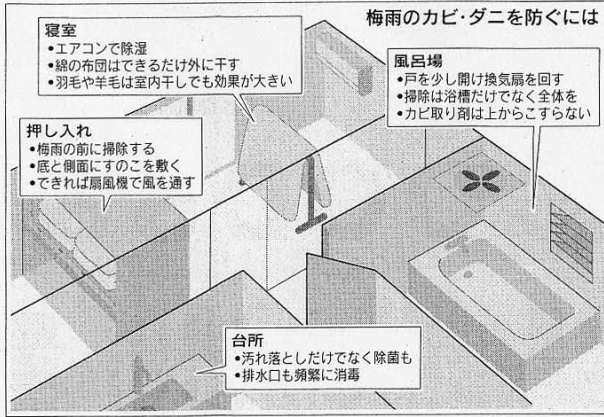


絵・相馬 公平

エアコンの電気代は気になる
ところである。住まい手が工夫
して電気代を下げればまず、地
球環境に良い。また、日中はす
だれなどを利用し、極力日光を
室内に入れない昔ながらの工夫
をすれば快適性も向上する。室
内の床、壁、天井の温度を上昇
させないようにすると、同じ温
度でも涼しく感じる。

(早稲田大学教授)

(2001 年 7 月 5 日付日本経済新聞)



梅雨の季節が近づいてきた。部屋にこもる湿気はシメシメと不快だけでなく、カビやダニの原因にもなる。カビが生じやすい水回り、ダニの心配が多い寝室を中心に、住まいの梅雨対策を考えてみよう。

カビが繁殖する要素は気温、湿度、栄養分の三つ。セ氏20〜30度、湿度70%以上だとカビは急速に増える。トイレタリー大手のライオンによると、二十四時間で百倍以上にも増殖するという。この条件にぴったり合うのが梅雨時だ。

室内で特に問題なのが風呂や台所などの水回り。まず風呂場では、風通しに注意する。「換気扇をいつも回す」という家庭も多いだろうが、暮らしのDI

梅雨を乗り切る知恵

Yアロバイザーの油田加寿子さんは「ちゃんと動いているかまず確かめて」と助言する。汚れや故障で機能していないことがあるため。たばこや線香の煙を近づけ、空気を吸っていないようなら掃除や交換を考える。換気扇の使い方にも注意。風呂場を締め切っても空気は流れない。窓を開け、戸も少し開けて脱衣所から乾いた空気を流れ込ませる。風呂を出るときに天井をタオルでぬぐったり、ゴムペラで水滴を落としたりするのも有効。洗濯用に浴槽に水を残すなら、必ず水を閉める。

湿気があっても「ジャンパーや湯あかなどの栄養分がなければ、カビは繁殖しない」「どうしてもカビを発生させたくない場所はまだに掃除した方がいい」と油田さん。風呂掃除を毎日行っても、浴槽の内側しか洗っていないことが多い。汚れはむしろ洗った場所に残っている。タオルの目地やゴムパッキンにカビの黒い染みができたら、まずスポンジですすいでみる。駄目なら次亜塩素酸塩などを用いた市販のカビ取り剤を使う。その場合、「決してこすらないこと」(ライオン家庭科学研究所の有村秋子さん)。カビ



室内では布団をいすの上などに掛けて両面に風を通す

取り剤は殺菌して漂白する。こすると液が分散して効果が落ちる。え、体や洋服に散る恐れがある。

次に台所。雑菌が繁殖すれば食中毒にもなりかねないだけに、汚れを落とすだけでなく、除菌も欠かせない。まな板は包丁跡に汚れがたまりやすい。たわしなどでかき出してから消毒。漂白剤を使うなら薄めておけに振り、まな板を浸す。まな板がおけに収まりきらなければ、ふきんをかける。漂白剤が吸われて、全体に行き渡る。泡が出るスプレータイプの除菌剤も最近増えている。「勢いよくきっちりレバーを引くと、泡がしっかりとできる」(油田さん)ので、全面を覆うようにしっかりかける。包丁は柄と刃のすき間に汚れがたまる。弱いアルコール漂白剤で除菌する。

水回り以外では、押し入れやたんすも空気がよどみ、カビの温床となりやすい。カビを栄養分としてダニが増えるのも大

戸開け換気扇 台所は除菌も

な悩み。ダニもカビと同様、暖かく湿った場所が好きだ。かゆみやぜんそくなどのダニアレルギーはダニの死がいでも生じる。ダニ対策に効果的な布団の干し方も覚えておきたい。

木綿などの植物性繊維は羽毛や羊毛などの動物性繊維に比べ、吸った湿気を放出しやすい。そのため晴れ間があれば「木綿の布団を優先して外に干す」とい

外に干す場合も、水蒸気が残る早朝は避け、午前10時から午後二時までを目安に。遅い時間はかえて湿気を吸う。片面二時間ずつ、両面干すこと。ダニの死がいは布団に残るので掃除機で吸う。丸洗いでできる布団もダニ対策に有効だ。

とはいえ、梅雨には外に干せないことも多い。そこで室内干し。布団を敷きっぱなしにせず、いすや台の上にかけて、エアコンで除湿をして扇風機で風をあてる。動物性繊維の布団は、特に効果が大きいという。布団乾燥機も役に立つが、布団が熱くなるので使うなら午前中がいい。